

新刊案内

(2024年1月発売)



尚学社

発売：大学図書



山本竜也 著

地方史のつむぎ方 北海道を中心に

A5判 460頁 ISBN：978-4-86031-186-5

定価：本体 3,400 円+税（税込 3,740 円）

カバー写真：掛川源一郎

地方史を調べ、聞き、書き発表する方法は？

これまで北海道の地方史の調査・公表に取り組んできた著者が、炭鉱・鉄道・古地図・女性・先住民族・空襲・武四郎・児童文学・方言・写真など、数々のテーマに取り組む在野研究者・作家・学芸員・大学教員ら24人にインタビューし、彼らの手法を探るとともに、自らの経験から得た地方史の調査方法を存分に伝える。【裏面に目次】

「身のまわりの歴史に興味を持ったことがないだろうか。……疑問を抱いたとき、どうすればよいのか。教科書を読んだところで、おそらく答えはない。書籍やネット記事に答えがあればいいが、かならずあるとも限らない。本にしても、ネットにしても、誰かがすでに調べたことが書かれている。誰も書いていない歴史を知りたいのなら、自分で調べるしかない。調べたなら、書くべきだ。書き残すことが歴史を記録することになる。書かなければ、時の流れとともに、調べたことも消え去ってしまうだろう。……誰も調べていない歴史を自分の力で調べ、聞き、書くことは面白い。私をこの世界に招き入れた作家は『物書きは3日やったらやめられない』という。この魅力ある世界に飛び込もうとする人に参考となる本を作れないか。そう考えて書いたのが本書である。」(本書「はしがき」より)

著者……山本竜也 (やまもと・たつや) 1976年(昭和51)大阪府生まれ。大阪大学理学部物理学科卒、北海道大学大学院地球環境科学研究科修士課程修了(雪氷学)。2003年(平成15)に気象庁に入庁後、東北・北海道各地を移り住む。仕事のかたわら地方史や個人史を題材に文章を書き続けている。『寿都五十話』で、第17回日本自費出版文化賞地域文化部門賞を受賞。札幌市在住。

主要著作 『続寿都歴史写真集 昭和三十二年～』(2021), 『寿都歴史写真集 明治二十四年～昭和二十年』(2018), 『父は帰ってこなかった』(2017), 『南後志—寿都・島牧・黒松内—に生きる 五十三人が語る個人史と町・北海道・日本の歴史』(2016), 『寿都五十話 ニシン・鉄道・鉱山そして人々の記憶』(2014), 『東海丸の最期 乗員と町民が語る寿都空襲』(2012), 『北海道空襲犠牲者名簿』(2011), 『寿都空襲』(2009)

尚学社 〒113-0033 東京都文京区本郷1-25-7 TEL 03-3818-8784 FAX 03-3818-9737

E-mail: verlag@shogaku.com ウェブサイト: <http://www.shogaku.com/>

新刊委託	番線	発売：大学図書（発行所：尚学社）	部数	尚学社
	月	山本竜也 著 『地方史のつむぎ方 北海道を 中心に』		TEL 03-3818-8784
	日	摘要		FAX 03-3818-9737

配本作業の都合、1月9日(火)までにご連絡をいただくと最短でお届けできます。

『地方史のつむぎ方』(2024.01) 書店用広告オモテ面

第1部 地方史調査と私

- 第1章 寿都空襲を追う
- 第2章 北海道空襲犠牲者名簿を作る
- 第3章 寿都の50の話をもとめる
- 第4章 人生を聞いて書く
- 第5章 寿都の歴史写真集を作る
- 第6章 気象資料からみる歴史
- 第7章 自費出版して売れるのか

第2部 地方史を調べる人たち

- 第8章 雄別炭砦の歴史を記録する——三沢悟さん
- 第9章 別海町の拓殖産婆と開拓保健婦を追う
——清水節子さん・小泉久美子さん
- 第10章 中標津発展のいしずえ 伝成館を保存運営
——飯島実さん
- 第11章 道内の歴史本、集めに集めた9000冊
——福田光夫さん
- 第12章 ギリシャ数学史と奄美の住民運動史
——斎藤憲さん
- 第13章 2万人に聞いた方言調査——見野久幸さん
- 第14章 北海道の庶民史を書き続けてきた
——菊地慶一さん
- 第15章 北海道の女たちに会い続けた人生
——高橋三枝子さん
- 第16章 近世・明治の北方図研究——高木崇世芝さん
- 第17章 親子3代の鉄道写真から始まった鉄道本
——原田伸一さん
- 第18章 図書館・貸本屋・古書店の歴史を調べる
——藤島隆さん
- 第19章 中学生時代から追った定山溪鉄道
——久保ヒデキさん
- 第20章 学生時代から続けるアイヌ史研究
——平山裕人さん
- 第21章 旭川の子どもの遊びを聞いて描く
——堀川真さん

- 第22章 江別の人と風土を描く——藤倉徹夫さん
- 第23章 最後の砂金掘りに話を聞く——加藤公夫さん
- 第24章 松浦武四郎研究のこれまでとこれから
——三浦泰之さん
- 第25章 米軍資料をもとに空襲を研究する
——工藤洋三さん
- 第26章 広範な資料収集と調査にこだわって
——白戸仁康さん
- 第27章 学芸員・大学教員として千島の歴史を研究する
——川上淳さん
- 第28章 新冠御料牧場の歴史を明らかに
——山本融定さん
- 第29章 プランゲ文庫の児童書を整理・研究
——谷暎子さん
- 第30章 掛川源一郎の写真作品をアーカイブ
——小室治夫さん
- 第31章 24人の歴史との出会いから成果発表まで

第3部 資料を調べる

- 第32章 裏付けをとる
- 第33章 図書館を使う
- 第34章 新聞を調べる
- 第35章 人口を調べる
- 第36章 人を調べる
- 第37章 漁業統計を調べる
- 第38章 農業統計を調べる
- 第39章 鉄道を調べる
- 第40章 鉱山を調べる
- 第41章 気象資料を調べる
- 第42章 船を調べる
- 第43章 戦争犠牲者を調べる
- 第44章 絵葉書・写真を調べる
- 第45章 参考になる本

担当編集より：私自身の先祖に関する調査を行う中で、著者による『寿都歴史写真集』を読み、まるで著者自身がその時代を生きてきたかのような錯覚に陥りました。一体どうやって作ったのか。聞き書き主体の『寿都五十話』、調査に基づく『東海丸の最期』と読み進め、メールでやり取りを重ねるうちに調査力・行動力とともにアウトプット力もまたずば抜けていることを痛感させられます。私の個人的な調査の資料に彼の著作があってくれたのは幸運でした。時間とともに記憶から薄れ、記録されないままの物事が失われ、さらには街そのものが消えていく現代、彼の手法が同じように何かを調べる人の役に立つと思い、本書の刊行を決めました。特に近代以降に限定されがちな北海道が中心となることは、弱点にもなりえますが、対象の絞りやすさという点からは記述を充実させることにも繋がり、ポジティブな要素となったと思います。自分の手法だけでは心もとないと、著者は24人のアカデミック／実務家／在野問わず地方史研究者にインタビューを行い、手法だけではなく地方史家自身の歴史をまたたつぷりと調べ上げました。調査手法に主眼を置きつつも、深く深く掘られてきた地方史の世界に奥行きを見せてくれる作品です。著者自身の生真面目で率直な性格は文体にも強く反映され、本文450頁近いボリュームですが、爽快に読み進められます。（芋野）